

質問 (杏林大) 鈴木 正彦

実験的 DIC ではなく、実際の産科における種々のショックに対し、エストロゲンが有効であると思われるか。

回答 (秋田大) 真木 正博

外科領域の敗血性 DIC 2 例で効果的であったという友人からの報告を得ているが、私自身の臨床経験はまだでない。

260. トロンボカイネテックスによる血液凝固因子の検討

(杏林大)

鈴木 正彦, 阿部 穰, 北條 泰輔
川田 則子, 津田 龍子, 高橋 興一
岡宮 久明, 山内 格, 斉藤 博恭

Thrombokinetogram の Vmax を中心に血液凝固因子について検討した。

1) トロンビンとフィブリノーゲンを混和したときの Vmax は、フィブリノーゲン量が300mg/dl から37.5mg/dl まで変化した場合には曲線的に減少した。また、トロンビン量を20u/ml から1.25u/ml まで変化させた場合にも曲線的に減少したが、両者における減少のしかたは同一ではなかった。

2) 症例における測定で、PT および APTT の Vmax はそのフィブリノーゲン量との間に正の相関関係が見られた。PT では、Vmax の25~90に対して、フィブリノーゲン量は160mg/dl~700mg/dl で相関係数は0.7559であった。APTT では Vmax の20~70に対してフィブリノーゲン量は250mg/dl~700mg/dl で、相関係数は0.6869であった。

3) 凝固までの時間が同じであるにもかかわらず Vmax が異なるものがあつた。

4) 悪性腫瘍、良性腫瘍、妊娠初期、妊娠10カ月、産褥5日以内の各群について、PT および APTT の Vmax を比較すると、PT、APTT ともに良性腫瘍群および妊娠初期群に比べて悪性腫瘍群のそれは高く、妊娠10カ月群および産褥5日以内の群のものとほぼ同じレベルであつた。

質問 (北海道大) 鈴木 重統

① FDP の出現してきている症例では、アンチトロンビン作用の結果、Claus の方法では誤差が生じてくる。この点を配慮されておられるか？

② いくつかの検査事項の中で例えば Ca 再加時間のように、再現性の乏しいこともある。演者にこのような

経験がありならおしらせねがいたい。

回答 (杏林大) 北條 泰輔

1) フィブ्रोメーターで測定している。

2) この機械における問題点の1つであると思うが、手技に慣れるにつれて再現性は良くなっているが、いま一步の感はある。

質問 (弘前大) 永山 正剛

凝固時間が短縮していながら、凝固因子を測定してみると減少しているといった例についてこの器械を用いて何か意味づけができるかどうかについておたずねしたい。

回答 (杏林大) 北條 泰輔

まだ、過凝固状態でかつ因子の異常をきたした症例はないので、データーはないが、Vmax が大きくて、かつ因子の減少を伴うものもありうると思う。

261. 妊娠、分娩、産褥時における血小板機能および第 VIII 因子活性、第 VIII 因子関連抗原、von Willebrand 因子活性の動態

(三重大) 梅川 宏司, 杉山 陽一

目的：産科領域において血液凝固線溶の問題は非常に重要である。最近第VIII因子の免疫学的検索が進み、血小板機能との関係について注目されはじめた。そこで妊娠、分娩、産褥時の凝固線溶系における劇的な変化の mechanism を解明する一手段として、血小板機能とその関連因子（第VIII因子、FDP、Hematocrit）の動態を検索した。

方法：正常妊産褥婦361例と臍帯血55例について血小板数、粘着能、凝集能、血餅収縮能および第VIII因子活性、第VIII因子関連抗原、von Willebrand 因子活性、FDP、Hematocrit の検討を行つた。血小板数は Brecher-Cronkite 法、粘着能は Salzman-安永変法、ADP、Collagen、Adrenalin、Ristocetin による凝集能は Evans 社の凝集 meter で測定し、血餅収縮能は Macfarlane 法、第VIII因子活性は Hardisty-Macpherson 1 段法、第VIII因子関連抗原は Laurell 法、von Willebrand 因子活性は Kirby-Macfarlane 法、FDP は FDPL test、Hematocrit は Mcgovern 法で測定した。

成績：血小板数は変化なかった。粘着能、凝集能は妊娠月数が進むにつれて低下傾向を示したが、分娩時亢進し、その後低下した。血餅収縮能も妊娠月数とともに低下傾向を示した。臍帯血は分娩時の母体血より粘着能で有意の高値を、凝集能は有意の低下を示した。第VIII因子活性、第VIII因子関連抗原、von Willebrand 因子活性は妊